

けんせいちくちいきせいかついこうすいしん
県西地区地域生活移行推進

みんかんでいあんじぎょう しんちよくじょうきょうせつめいしりょう
民間提案事業 進捗状況説明資料

れいわ ねんど
「令和5～6年度の
とりぐみじょうきょう
取り組み状況について」

けんせいちくちいきせいかついこうすいしん
県西地区地域生活移行推進

みんかんでいあんじぎょうじむきょく
民間提案事業事務局

しゃかいふくしほうじん ほうあんじしゃかいじぎょうぶ
社会福祉法人 宝安寺社会事業部

[県西地区における障害者支援の現状]



- 1、**関係機関同士が顔が見える関係** — **協力関係が築きやすい**
- 2、**入所利用者の高齢化・重度化** — **地域生活移行の停滞（再度の見直しが必要）**
- 3、**障害児入所施設の過剰児対策** — **安定した退所後の生活の場の提携の必要**
- 4、**グループホーム新設増** — **グループホーム間の情報交換・連携の必要（支援の質の向上が課題）**
- 5、**人材の不足** — **安定した事業所運営・地域支援システムの構築に人材の確保と育成は急務**

県西地区地域生活移行推進

民間提案事業のコンセプト

地域の力を集結して

障害のある方の

暮らしの選択肢を増やして

安心できる生活の場の提供をしよう！

＊意思決定支援の強化・徹底とともに、

良質なサービスの提供に努めよう！

【けんせいちく 県西地区 ちいきせい 地域生活移行推進事業 がいよう 概要】

めざ 目指す方向性・達成目標 ほうこうせい たっせいもくひょう

- りようしゃひとり 1、利用者1人ひとりが あんしん 安心して暮らせる場の せんたくし 選択肢を増やす
- りようしゃ 2、利用者の意思の形成から けつてい 決定まで よそ 寄り添う支援ができるシステムの こうちく 構築
- けんせいちく 3、県西地区の関係機関の そうりよく 総力を挙げて じぎょう 事業の達成に取り組む

めい 15名の ちいきせい 地域生活移行 いこう

じやくねんそう 若年層の ひょうかにゆうしよ 評価入所を へ 経た ちいきいこう 地域移行 めい 5名

県西地区 地域生活移行推進

民間提案事業 概要

1

意思決定支援に
基づく現入所者の
生活の質の見直し

若年層の有限支
援プログラムの作成

県西地区入所施設
ミーティングの定例化

地域生活移行エキス
パート・スペシャリスト
との連携

障害者支援施設の連携と見直し

- ・ 入所施設とグループホームの連携
- ・ 若年層の積極的受入れ
- ・ 現入所者の生活の場の見直し検討

2

圏域ナビとの
連携

行政機関との
連携

相談機関との
連携

高度専門職による
研修

研修動画の作成

グループホームとの連携

- ・ 障害支援施設との事例協議
- ・ グループホーム職員研修・コンサルの実施
- ・ グループホーム連絡会の開催

3

研修講師
育成PT

事例検討
ファシリテーター
養成PT

研修体系
構築PT

大学との
連携による
「小田原地域
盛り上げ作戦」

人材の確保と育成

- ・ 若者世代の福祉人材の育成
- ・ 高度専門職の育成
- ・ 研修体系の構築
- ・ 実践報告会の開催

令和5～6年度実績状況

1 障害者支援施設の連携と見直し

(1) 入所施設の連携

- ・県西施設長会ごとに入所施設ミーティングを実施し、情報交換を行った。(GH情報、困難事例の工夫など)

(2) 地域生活移行実績

令和5年度 0件

令和6年度 3件(いずれもグループホームへの移行)

(3) 若年層の積極的受け入れ

- ・障害児入所施設ミーティングを実施し、スバル式生活力評価、三浦しらとり園評価シートを共有(令和7年度勉強会を予定)

2 グループホームとの連携

(1) グループホーム連絡会の開催

- ・グループホーム連絡会運営委員の選出(7名)
- ・連絡会を3回開催(困難共有、事例検討、研修)
*26か所の運営主体のうち22か所が参加)

(2) グループホーム職員研修(世話人、支援員を対象)

- ・かながわ福祉サービス振興会からの依頼で2回実施
- ・独自開催1回
- ・グループワークによる情報共有・意見交換
(グループホーム職員としてのやりがい、利用者との距離感)
- ・研修動画15本作成(権利擁護、障害特性、地域防災など)

3 人材の確保と育成

(1) 実践報告会の開催

- 令和6年度 第1回実践報告会開催(4例発表 27名参加)
- 令和7年度 第2回実践報告会開催(4例発表 38名参加)

(2) 研修体系の構築と共有

- 研修体系案の作成(原案を宝安寺社会事業部が作成)
- 県西施設長会で共有後の取扱いを検討

(3) 高度専門職の育成

- 4法人の若手職員による研修動画作成(4本)
- 中堅職員を研修会のファシリテーターとして起用

本事業の成果 ①

(1) グループホーム連絡会の実施

他圏域のようにグループホーム連絡会が、自立支援協議会の

下部組織として位置づけられていなかったことから、困難は

あったが、開催したところ多くの参加を得た。

グループワーク等を通じて、各事業所間の連携が強まった。

(2) 入所施設ミーティングでの情報交換

支援困難事例について情報の共有、支援の相互アドバイスを

通じて、3件の地域生活移行が成立した。

丁寧な意思確認に基づきながらも、各入所施設で地域生活

移行推進の機運が高まった。

ほんじぎょう せい か 本事業の成果 ②

せわにん しえんいんけんしゅうかい かいさい (3) 世話人・支援員研修会の開催

たけんいき くら さんかしゃ おお ふくし
他圏域と比べて参加者が多く(かながわ福祉サービス
しんこうかい けんしゅう たか はんめい
振興会より)、研修ニーズが高いことが判明した。

じんざいいくせい (4) 人材育成

けんしゅうどうがさくせい けいけん じっせんほうこくかい
研修動画作成やファシリテーターの経験、実践報告会などを
つう ひろ しや も しょくいん いくせい ちいき しえんりよく
通じて、広い視野を持つ職員の育成により、地域での支援力
こうじょう じっかん
の向上が実感できた。

今後の取り組み課題（次年度以降への事業継続）

- 1 グループホーム同士及び入所施設との連携強化
- 2 グループホームの次のステップへの情報の共有
- 3 研修やコンサルテーションなどのニーズ把握
- 4 行政や関係機関の協力要請
- 5 事務局の事務や権限の委譲
- 6 県西地区での取り組みのアピール

最後に

県西地区における障害者支援の将来像

利用者1人ひとりが自らの意思に基づいて
いくつになっても安心して自分らしく暮らせる
生活の場が選択できる

